

# 町長回誌 No.209



町長日誌の第 209 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

3月11日(木) PM 2:46

この日、この時間、私たちは忘れることの出来ない日時です。テレビや新聞ではこれでもかと言わなければ、被災地の復興状況や福島第一原発の様子、さらには防災対策などを報道していますが、津波の映像すら見たくない被災者もきっと多いと思います。今朝、10年前の手帳を開いてみました。この日は議会の最終日で、午後から本会議が開催され平成 23 年度予算などが可決され、町長室に戻り一息ついた時、グニャグニャと表現したくなるような気持ちの悪い揺れがあり、「地震だ!」と思った私は直ぐに職員に声を掛けテレビのスイッチを入れました。テレビ画面からは真っ黒な津波が南三陸町や釜石市などの港から市街地を飲み込み、次には郊外の田んぼなどをまるで悪魔の手が大地を覆いつくすかのように恐ろしく進む状況を人々の泣き叫ぶ声と共に観たことを忘れたことはありません。あの年は3期目の町長選を控えており私の脳裏に浮かんだのは本当に不謹慎ですが「この被災地の町長でなくて……」と言うことです。と同時に私がここの町長ならば、最初に何をすべきか?などと考えながらしばらくの間テレビを見つめていましたが、気を取り直し副町長に非常準備体制の指示を出したのです。ところで、この災害で最大規模の津波は南三陸町を襲った 32.9 m の津波です。モーモー城が建っている酪農の丘が海拔 53 m ですから、例えば興部高校

などは水没してしまう様な津波の高さです。オホーツク海では想定されていない恐ろしいほどの津波が人々の生活や人生を奪ってしまいました。しかし、この恐ろしい海は長い間豊かな恵みをもたらしてくれていたことも事実です。10 年が経ち新たな課題が起きています。それは福島第一原発から出る大量の汚染水の海への放流です。「今でも売れない三陸の魚なのに、さらに風評被害で売れなくなる」と水産関係者は猛反対しています。しかし、この地域は遠洋漁業の衰退から寂れる地域を守るために誘致した原子力発電事業により長い間恩恵を受けてきたこともまた事実なのです。

3月9日(火)

夕方、オホーツク総合振興局からワクチンの納入について連絡がありました。

高齢者への優先接種分 22 箱(1 箱 = 1000 回分 = 500 人分) が 4 月 16 ~ 19 日に北海道分として入るので保健所所在の自治体に優先配布することになったようです。オホーツク管内は北見市と紋別市に配布されます。その後は、4 月 26 日以降に他のすべての市町村に 1 箱ずつ配布される予定で、興部町の高齢者への接種開始はゴールデンウィーク明けの予定となります。その後の入荷についてはいまだ不明ですが順次納入されるものと思います。当初の予定よりかなり遅れ、しかも人数限定となりますがご協力をお願いいたします。

コロナの感染症も少し落ち着いて来たかと思うと、今度はイギリス型の変異ウイルスが札幌などで検出されたとのことで、やはり戦いは長くなりそうです。特に、3 月・4 月は入学・転勤などの季節ですから大勢での飲酒・会食などはご辛抱願います。しかし、季節はちゃんと春を届けてくれます。ホタテ漁が始まり毛ガニ漁も 15 日からと聞きます。大漁を願っています。では、また。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131 です。

